

実証成果 J A 島原雲仙ブロッコリー一部会連絡協議会（長崎県雲仙市）

実証課題名 中山間地におけるブロッコリーの生産から出荷をつなぐスマート農業システム

実証面積 256ha(協議会全体のブロッコリー栽培面積)



導入技術 ①スマート農機による省力化栽培システム②根こぶ病等のヘソディム防除対策システム
③出荷予測システム④自動選果システム



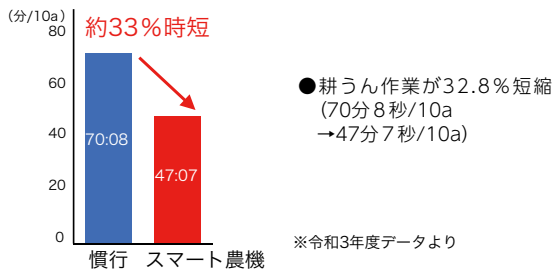
目標 ○10a 当たりの労働時間をそれぞれ秋作 12%、冬作 13%、春作 6%以上を削減
○スマート農業技術一貫体系の導入により、作付面積及び出荷量を 11%増加

1 目標に対する達成状況

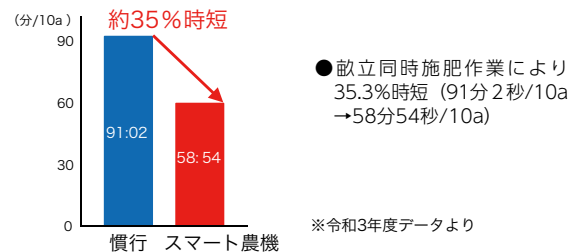
○スマート農業の秋作の10aあたりの労働時間を県基準と比較して41.6%（87.0時間→50.8時間）、冬作の労働時間を47.3%（93.0時間→49.0時間）、春作の労働時間を27.9%（103.0時間→74.3時間）を削減し、目標を達成。
○ブロッコリーの作付面積および出荷量が11%（R1：207ha・2,393t→R3：230ha・2,966t、※R3は推定値）増加し、目標を達成。

2 導入技術の効果

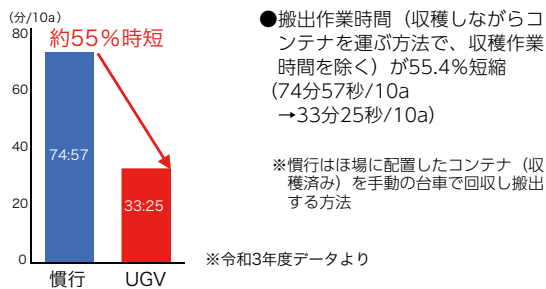
GNSS ガイダンスによる耕うん作業



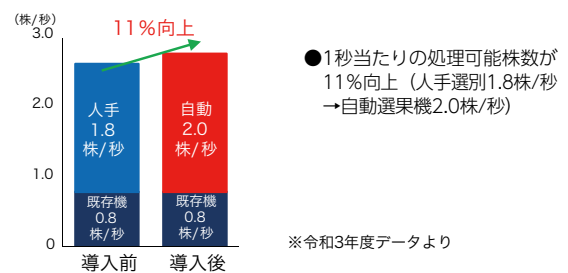
GNSS ガイダンスによる畝立同時施肥作業



UGV による収穫物搬出作業



自動選果機



3 事業終了後の普及のための取組

○UGVによる防除作業の実証が未だである。今後、各作型（秋、冬、春）における防除作業の実証試験により、労働時間削減効果を明らかにすることで、普及拡大につなげていく。
○GNSSガイダンスやUGVのシェアリングによる導入コストを抑制し、スマート農機利用による労働時間削減で生じる余剰時間を規模拡大につなげ、更なる産地の拡大につなげていく。

問い合わせ先 島原雲仙農業協同組合 林 和昭 (e-mail: einou@office.email.ne.jp)